



2020年8月29日(土) 14:00~16:30 感染症と私たち

オンライン(zoom)講演会開催のお知らせ

毎年8月の立命館土曜講座を立命館大学国際平和ミュージアムが企画担当をしてきましたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため立命館土曜講座が中止となりました。そこで、立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター主催でWEB講演会として開催することといたしました。

どなたでもご参加いただけますが、事前の申し込みが必要となります。

以下のメールアドレスに、参加ご希望の旨とお名前をご連絡ください。

メール受信後に講演会参加の案内をメールにて送信いたします。

申し込み先：wp-event@st.ritsumeai.ac.jp

 **立命館大学
国際平和ミュージアム**
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

講演 I

感染症が私たち人類に問
うていることー今、求めら
れる知性・教養ー

講師：兵藤 友博氏
(立命館大学名誉教授)

講演 II

感染症と近代ー植民地
朝鮮におけるスペイン風邪
流行の歴史から

講師：鄭 雅英氏
(立命館大学経営学部教授)

事前の申し込みが必要です。
wp-event@st.ritsumeai.ac.jp

立命館大学国際平和ミュージアム
平和教育研究センター

〒603-8577
京都市北区等持院北町 56-1
075-465-8151

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>

講演Ⅰ 感染症が私たち人類に問うていることー今、求められる知性・教養ー



講師：兵藤 友博氏 （立命館大学名誉教授）

専門分野：科学と技術の歴史ないしは科学や技術の現代における社会的諸問題の考察

1995年～2014年 立命館大学経営学部・理工学部教授

2014年～2019年 立命館大学経営学部特任教授

現在、立命館大学名誉教授、授業担当講師

日本学術会議連携会員

ウイルスが感染症を引き起こしてパンデミックとして社会化して半年程経ちましたが終息しません。感染症はウイルスが原因であるが、感染症自体は人間的自然に引き起こされる病症で、これを回避する方策は人間の側にあります。ヒトはあらためて地球的自然の中でどう生息しえて来たのか、人類社会の自然との間合い、そして産業化と都市化を推し進めた文明社会はどのような事態に到っているのか、その歴史を振り返って指針を見いだすことが大切でしょう。私たち人類の知性が問われているともいえましょう。

講演Ⅱ 感染症と近代ー植民地朝鮮におけるスペイン風邪流行の歴史から

講師：鄭 雅英氏 （立命館大学経営学部教授）

1958年横浜生まれの韓国籍在日朝鮮人2世

早稲田大学政経学部政治学科卒業

大阪市立大学院経済学研究科修了、博士（経済学）

在日朝鮮人・中国朝鮮族など在外コリアンの歴史やエスニシティを研究



感染症に対する医療技術や防疫システムの向上は人々が待ち望むものですが、一方で国家による強制的な都市封鎖や「自粛警察」に象徴される市民間の相互監視など、民主主義や人権概念とは相克する事態をもたらしています。100年前、「武断統治」時代の植民地朝鮮で拡散した「スペイン風邪」が、朝鮮民衆と日本の植民地政策に何をもたらしたのかを通じて、「近代」の持つ両面性と日韓関係史の断面を探ります。